

令和 5 年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1471900785	事業の開始年月日	1998`2/1
		指定年月日	2000`3/1
法人名	社会福祉法人 湘南福祉協会		
事業所名	グループホームなごみ		
所在地	(〒239-0807) 神奈川県横須賀市根岸町4-10-10		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	9名
		ユニット数	1ユニット
自己評価作成日	令和5年10月10日	評価結果 市町村受理日	令和6年3月6日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none">この利用者様は、いつもと違うなという職員の気付きを大事にしている。近隣のクリニックも活用し受診につなげている。協力病院である湘南病院の助言を受け、疾病の重度化を防いでいる。そのため主治医、看護師とは連携を密にしている。コロナ禍では外出もままならなかったが、感染防止と並行して、筋力が落ちないように日常生活を通じてのリハビリに努めた。
--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年10月25日	評価機関 評価決定日	令和5年11月23日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の優れている点】 ◇年1回の自己申告書による全職員参加の事業所運営 ・年1回全職員が提出する「自己申告書」には、各職員の自己評価とは別に、事業所運営に関する意見・提言も書くようになっています。管理者はその内容を汲取ること、職員全員の総合力で事業運営を進めています。 ◇職員を育てる熟練先輩職員によるOJT ・全職員9名の内、経験年数が15年以上2名、5年以上5名で80%が熟練者で占められており、熟練介護士によるOJTでの新人教育が、高い介護技術、利用者との接遇に結びついています。 【事業所が工夫している点】 ◇利用者の希望に合わせた調理、料理の提供 ・利用者はテレビを共有フロアで見ながら、料理番組での料理が食べたくなるようです。職員は会話の中でそれを会話で聞き、もしくは察知し、すぐに食材の調達を進め、翌日の献立に反映させ、利用者から喜ばれています。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	グループホームなごみ
ユニット名	

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に事業所、法人の理念を掲示して職員の意識統一を図っている	・法人理念の「人間の尊厳を守り、介護と医療の協調を図り…」をベースに事業所理念「一人ひとりの意思を尊重し…」を打ち出し、全職員は会議などで再確認している。 ・理念は玄関フロアに掲示し、職員は共有し、介護にあたっている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、避難訓練・防災訓練には積極的に参加している また地域の行事にはなるべく顔を出し交流を深めるようにしている	・コロナ禍では中断していた、ハワイアン、ギターなどのボランティア音楽同好会の受け入れを徐々に再開している。 ・地域の防災訓練にも利用者・職員で参加し、地域の方と久しぶりに顔合わせが出来た。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の散歩などを通じてグループホームの存在を知ってもらうように心掛けている また入所ご希望の家族には、見学の際、認知症介護の大変さを共有してる		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営に関する家族のご希望を中心に、市や町内会からの提案や助言をサービス向上につなげている	・運営推進会議のメンバーは、市職員、包括センター職員、町内会長、長寿会会長、民生委員、家族代表3～4名、事業所職員で構成され、2か月毎に開催している。 ・運営状況報告書と運営推進会議議事録はメンバーに郵送している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	メールでの伝達が主となるが、集団指導講習や運営状況点検書を中心に実施している	・管理者は横須賀市の「グループホーム集団指導講習会」に年1回参加し、市の指導を得て、事業所運営をしている。 ・市からは利用者、職員の感染症予防接種などの案内があり、事業所は接種状況、結果を報告してる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	指針を整備し、定期的に身体的拘束等廃止委員会の開催と研修を実施している	<ul style="list-style-type: none"> ・身体拘束等廃止委員会を3か月ごとに開催し、また、事業所独自に作成した「入所施設における身体拘束等の適正化のための指針」をベースに毎月の職員会議などで全職員で話し合っている。 ・管理者は「身体拘束」の外部研修会を受講し、職員に周知している。 	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的で開催してる虐待防止委員会で、具体的な例をあげ、虐待に当たるかどうか職員で話し合うようにしている	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所は虐待防止委員会を3か月に1回開催し、また、高齢者施設における虐待防止に係る点検実施要領によるチェックシートを全職員が記入・提出し虐待防止に努めている。 ・身体拘束廃止と同様に、スピーチロックも注意している。 	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員会議などで学ぶ機会を設けている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ていねいに説明することを心掛けている 具体的な例を掲げ、疑問や不安を取り除くようにしている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	必要事項の連絡だけでなく、本人のご様子を率直に報告し、それに対する家族の要望を聞くようにしている	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中断していた家族との面会も再開しており、その際の職員との会話からの家族意見を汲み取るケースが一番多い。 ・表現困難利用者本人の意向、気持ちは、表情・仕草より推定して職員全員で共有している。 	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	朝夕の申し送り時や、回診後の職員会議で積極的に発言・提案し、反映させるようにしてる	・年1回全職員が提出する自己申告書には、自分の仕事における自己評価の他に、施設運営に関する提案を記入するようになっており、管理者は年1回の面談によって、ケアの仕方提案など全職員からの個人意見を汲上げている。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者には、定期的開催される法人の施設長会議で、現状を報告し把握してる その中で課題・要望を取り上げ改善するよう努めている	・管理者は職員の健康状態を、日勤者は年1回、夜勤者は年2回の健康診断結果で状態を把握している。 ・職員からの就業環境に関する意見・提言は「自己申告書」などで汲取り、実施可能なものは法人の会議などで提案している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、十分なケアを提供するうえで何が足りないかを把握してる 法人として人員の確保と、資格取得や研修参加を推奨している	・全職員9名の内、経験年数が15年以上2名、5年以上5名で80%が熟練者で占められており、OJTによる新人教育が高い介護技術、利用者との接遇に結びついている。 ・管理者は職員に上位資格取得や各種研修会への参加を勧めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	代表者は、法人内の情報交換の場を設けたりしてサービス向上に取り組んでいる		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前から家族や担当ケアマネジャーから積極的に情報提供を受け、本人の要望の把握に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時、家族から率直な要望を聞き安心して生活が送れるよう支援することを伝える		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	様子観察とこまめな声かけを行う そうすることで必要な支援を提供できる		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介助をする際、やさしい声かけをしてから行うようにしている		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会や受診付き添いの際、率直にご意見や要望を聞くようにしている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	会話の際、間違っても肯定的に捉えるようにしている またコロナ禍であるが短時間の面会の場を設けている	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍で中断していた馴染みの人の受入は再開している。 ・利用者一人ひとりの馴染みの人、場所などはアセスメントシート作成時に特記事項などで記録している。 ・馴染みの人の居ない利用者の家族には、掘起しを依頼している。 	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないようテーブル席の配置を考慮し、会話が成立するようにしている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	遠慮なくお問い合わせいただくよう伝えている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	うまく訴えることが出来ない時は、根気よく声かけし意向を探すようにしている	・言葉で意思表示の困難な利用者については、声掛けをし、表情、仕草などで類推し、結果は全職員で共有し介護を進めている。 ・また、家族にも状況を伝えながら、意見を聴くようにし、必要ならケアプランに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時のアセスメントだけでなく、比較的記憶の保たれている頃からの様子を聞き出すようにしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	いつもと違うなという職員の観察力を大事にしている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の希望や家族の意向を尊重した介護計画を作成するようにしている また変化があった場合は、職員の提案を参考に作成する	・6か月に1回と定例モニタリングを行うが、毎月の職員会議でも管理者、職員3～4名で利用者一人ひとりにつきモニタリングを行っている。 ・利用者家族とは面会の度にケア状況を説明し意見を求め、医療連携の医者、看護師の助言も得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	変化や気付いたことを個人記録や介護日誌に記入し職員間で共有してる		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	疾病の重度化や認知症の進行に合わせて従来のやり方にとられない方法でサービスを提供している		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	まだコロナ禍での感染対策継続中だが、徐々に面会制限や外出制限を緩和している		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	基本は、家族の同意と主治医の指示・助言で受診している 事業者が橋渡しとなっている	・内科医と歯科医の訪問診療は月2回となっている。看護師は週2回来訪している。 ・通院は運営法人の湘南訪問に行っており、管理者が付き添いをしている。診療内容は受審報告書で家族に報告している。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は毎週水曜日の訪問で職員より報告・相談を受け、助言・処置を行っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医を通じて担当医と連携し円滑に入退院を行っている また他受診した際、関係者と情報交換している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化するなるべく早い段階で、回診や受診時などに主治医より治療方針などを説明してもらう その後チーム（事業所）で情報共有する	・入所時に利用者と家族に「重度化した場合における対応に係る指針」の説明をし、同意書を貰っている。 ・看取り介護を行っているが、最終的には湘南病院で看取っており、事業所での看取り実績はないので、職員への研修は行っていない。	・看取り実績はなくとも、看取り介護を行っているので、職員への研修が望まれます。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や重大事故発生時は、施設長に連絡・報告し指示を仰ぐことになっている 初期対応、応急手当も実践済み		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年6月、地域の防災訓練に参加施設内でも定期的に避難訓練を開催している	・夜間想定1回を含め、避難訓練を年2回行っている。訓練には地域住民も参加して、利用者の見守りを担当している。 ・災害備蓄品はリスト管理している。水、食料品は3日分を備え、他に防災用品や衛生用品等がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	「・・・さん」付けで声かけしている 職員同士では、小声で部屋番号で話すようにしている またトイレのドアは死角が無い範囲で閉めて介助している	・申し送り時は、利用者に聞こえないよう配慮し、利用者については部屋番号で話してプライバシーに配慮している。 ・職員には拘束・虐待防止委員会で人権尊重について再確認している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	やさしい声かけで、お話を傾聴するようにしてる 訴えを否定せず肯定的にとらえるようにしてる		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ADL低下、認知症の進行を理解してその人に合ったペースで生活を送るようにしてる		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に清潔な衣類を提供し、整容ではご自分で髪をとかすなど支援している		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食前は必ず嚥下体操をする 一人ひとりに声かけしながら、味わいながら楽しく食事するよう心掛けている	・食事は利用者の希望を聞いて職員が手作りしている。利用者はTVの料理番組を見てリクエストすることがある。 ・誕生会や敬老会には寿司などの特別職を出し、ノンアルコールシャンパンで乾杯している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ムセや窒息に注意しながら、よく噛んで食べるよう声かけしてる状態に応じて形状や摂取量に注意している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとり食物残渣が無いかどうか、うがいをしたかどうか確認しながらケアをしている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事の前後、入浴前には必ずトイレの声かけをしている オムツの方には2人対応で最小限のトイレ介助を行っている	・排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、時間や利用者の様子を見てトイレ誘導をしている。 ・利用者全員は日中リハパン+パットで過ごしているが、夜間はオムツをつけたり、ポータブルトイレを使う利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が、水分摂取の重要性やトイレでの排泄の必要性を理解し、薬に頼らない工夫を行った		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりに合わせゆっくりと入浴していただくよう努めた タイミング（排泄、気分）が悪い時は、時間をずらしたり職員を替えたりして対応した	・入浴は週2回、午前中に行っている。 ・くつろいで入浴できるよう、季節の菖蒲湯・柚子湯を行っている。入浴中、利用者は職員と世間話をしたり歌をうたって楽しんでいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中、体調がすぐれない時は無理せず安静対応にした また就寝まで時間を要する方には、事務所でいっしょに TVを見ながら見守りをした		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認をしっかり行い症状の変化に留意した 体調の変化があった場合は施設長に報告した さらに主治医に相談し指示を仰ぐようにした		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみや新聞紙折りなど、出来る範囲でお手伝いしていただくようにしている ミニレクリエーションなどを挟み、個人の塗り絵などを支援している		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍と猛暑で十分な外出支援が出来なかった 外出希望の家族には、感染対策を声かけし支援している	・コロナ禍では外出できなかったが、落ち着いてきたので、利用者全員がタクシーを使い近隣の公園に行き、30分程度の散策を楽しんだ。 ・コロナ禍以前は、家族と外出し外食や買い物をする利用者がいた。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金が無い不自由さを理解し、ご家族からお預かりしてるお小遣いの中から、希望の品物を購入している ただし不穏にならない程度の金額、回数としている		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	お預かりした手紙や写真は、ご本人にお見せし、部屋の中に飾っている電話に関してはご家族と相談しながら対応している		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	コロナ禍を経て居室、共有部ともハイター消毒など清潔保持に努めている 猛暑の中、湿疹予防予防のため換気・室温調整に努めた	・リビングの清掃は、作業スケジュールに則り、午前・午後各1回消毒も含めて職員が行って清潔に保っている。 ・季節感の演出のため、職員が作った切り絵を、利用者が台紙に張り付け、作品を作っている。9月は月と兎を作った。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	関係性が悪なったり、不穏な状態になったりするので、いつも一緒ではなく、時々一人になる時間を作った		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご自分の部屋でくつろげるよう、馴染みの品物を配置するよう努めた	・居室は、事業所が設置するエアコン、ベッド、クローゼット、カーテンの他に、利用者がTV、タンス、寝具など馴染みの品を持ち込んでいる。 ・居室の清掃、整理整頓は職員が行っている。清掃を手伝える利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	生活空間であることが認識できるよう、残存能力が活かせるよう余計な表示は取り除いている		

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホームなごみ

作成日 令和 5年10月10日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1		身体的重度化と認知症の進行が著しい	重度化しても安心して暮らせること	・医師・看護師との連携強化 (すぐ受診できること) ・家族の協力 (面会、受診付き添い)	1年
2		職員が利用者様の介助に手いっぱい、時間的に余裕を持って対応できない	利用者様と会話できる時間を作り出す	・介護職員の補充 ・介護度の見直し (重度者の特養移動など)	6か月
3		利用者様が、やることが無くボーッとしてること	一人ひとりが何かをやっていること	・ご本人に「何をやりたいか？」の聞き取り調査 ・家族から「昔、何をやっていたか？」を聞く	3か月
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。